

NVC Monthly



同好会ニュース

寝屋川映像同好会会報

第4号(090911)

発行 竹田幸男

9月例会開催



この夏を乗り切った皆さん、所用で欠席された2人をのぞいて元気な顔を見ることができました。

例会の窓

平成21年9月例会

日時 平成21年9月11日 13:30～16:30
場所 寝屋川市民活動センター(市民会館4F)子供部屋
出席者 天野 新井 石田 小笠原 梶本 竹嶋 竹田 竹下(8名)
欠席者 谷 田淵(2名) (50音別 敬称略)

例会次第（今回の要約 竹嶋氏）

1 . 竹田会長近況報告

《寝屋川市映像協会で「寝屋川まつり」の撮影をした時の失敗事例紹介》 再生音声割れる

（原因）会場のスピーカー(大音量)の前での撮影時に外付けマイクをセットしたままであったため、マイクの感度が高く、AGC(カメラ内蔵の自動録音レベル調整)では入力を押さえきれずが働かず、入力レベルオーバーで録音されてしまった。

太鼓をたたく「バチ」が再生画像でマルチストロボのような状態になる。

（原因）当初、ビデオカメラの録画設定が「プログレッシブ」になっていると、動きの速い被写体では映画の「24コマ」のような画像になってしまうためと考えた。動きの速い被写体には「プログレッシブ」撮影は止めた方がよい。

その後の調査では、プログレッシブ（30コマ）ではなく24コマだったことがわかりました。まさに映画並みです。

パンした時の再生画像が横にパッと飛ぶ

（原因）撮影時の「手ぶれ防止」を入れていると、パン時のスピードによっては、横とび現象が起きる。三脚をつけてパンするときは手ぶれ防止を解除した方がいい。

2 . 「寝屋川市民文化祭」へのビデオ作品出品について

11月1日（日）に開催の「市民映像作品発表会」に出品する市民作品を募集している。同好会からも応募する。

（竹下さんがエントリー済み。竹嶋もエントリー予定）

3 . 同好会会報について

「自由記述欄」を設ける。

第1号候補：「実験レポート」（天野さん担当）

他に「同好会に入会しての感想」（梶本さん）、

案：「料理の上手な撮影法」「蓮の花の綺麗な撮り方」・・・など。

4 . 作品映写

「人生の扉」：6分25秒 天野さん

「竹内まりあ」の曲に合わせて映像を入れた作品。

出た意見：花と家族映像とのつながりが一寸わかりにくい。この曲を知って

いる人にはわかる。

歌詞をそのままテロップにして入れて、曲の筋書きがわかればいいのではないか。時代背景の画像を入れるとよい。今後のバージョンアップに期待する。

天野さんの新ジャンル開拓が関心を引いた。

「あさひ丘公民館まつり」：12分収録 竹田さん（撮影協力 竹下さん）
出た意見：「仲の良い町」「全員参加の町」が伝わって来る。

カラオケ風景の編集は出演者を取捨選択出来ず、全員写すのに苦労されているのがわかる。町内史になる作品。

5 . 会員の当面する問題点報告、質疑応答

・ノートパソコンが安かったので成り行きで買ってしまった。（梶本氏）

Vistaなので、超編などは働かない。セブンにアップグレードすれば使えるかも知れない。ただし1394端子があるか、またはアダプターを入れてつなげられるかどうか、が課題。

6 . その他

(1) 同好会作品発表会:来年3月13日(土)松心会館にて開催予定

(会場予約:田淵さん)

(2) ひな祭り撮影会:来年4月3日(土)~4日(日)/岡山

交通の便や一泊をどうするか。

田淵氏の知人宅に全員が泊まり込むのは、相手に迷惑を掛けることと、安眠できないだろうから、一部有志のみにして、他は町営の宿泊施設に泊まるよう手配してはどうか。

また、交通は全員ならば車3台必要。運転者の負担を考えると、基本的には公共交通機関を利用する方向で検討する。片道3,400円程度 今後検討

(3) 他団体の映像発表会・交流会について

・第13回「大阪アマチュア映像祭」が10月25日開催される。

・他映像団体との交流を今後企画する。

映像協会が1-2月に「映像北大阪」を招く予定なので、そこへ合流することも考える。

(4) 次回例会

・10月9日(金)13:30~ 市民会館4階予約

ビデオカメラ映写担当:竹下さん

実験レポート



パソコンをより楽しく使用するために

天野 忠一

新しいノートパソコン(従来機種より少しハイスペック)を購入した機会に、今まで使ったことのないマウス、そしてグーグルジェットを使ってみました。使用しての感想は案外便利であり、パソコンライフがより楽しくなったように思いますのでご紹介したいと思います。

周辺機器・ソフト等はその人の感性、価値観により必要、不必要と分かれてますがうまく活用すれば、結構楽しいものです。

※注意 パソコンはWindows XP で使用しています。

まずマウスですが、光学式マウスは常識の時代ですが、今回ワイアレスマウスを使用してみました。従来のマウスと機能は変わりませんが、接続線がなくなったというだけで、『こんなにすっきりするものなのか』と思うと同時に、接続線があると何故か動きに制約があるようで(線の質量は僅かですが)動きが重い感じがしていました。



今は、快適なマウス操作ができています。しかしいいことばかりではなく、電池を使用しますので、電源の切り忘れ、また通常動作の電池寿命が少し気になるところです。

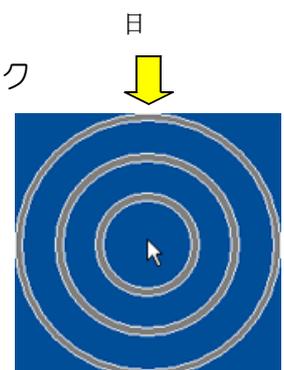
またマウスを使用中、時々マウスポインターの位置がどこにあるかわからない場合があります。

(マウスを動かせばわかるのですが、見つけにくい場合もあり)そこで今回、マウスポインターの位置を表示する機能設定がウィンドウズにありますのでその設定を試してみました。ご存知でしたでしょうか。

マウスポインターの位置を見失った時に、『Ctrl』キーを押せばマウスポインターを中心に一瞬波紋状の円が表示されますので、すごくわかりやすいと思います。

設定方法は以下のようにします。

- ① 『スタート』メニューをクリックし『コントロールパネル』をクリック
- ② 『マウス』をダブルクリックし『マウスのプロパティ』画面を表示
- ③ 『ポインターオプション』タブをクリック
- ④ 『表示欄』にある『Ctrlキーを押すとポインターの位置を表示する』



をクリックします。
これで設定完了です。



今回はグーグルガジェットの利用です。デスクトップに貼り付けることができるちょっとしたアプリケーションですが、天気予報・株価・カレンダー・時計等、約176の多数のガジェットが準備されており、お気に入りの登録すると案外楽しいものです。

私は、①カレンダーと②西暦・元号変換ガジェットをデスクトップに登録しています。

カレンダーですが、写真のような1ヶ月カレンダーと時刻表示のものです。パソコンで作業をしている時に、『今日は何日・何曜日?』とか『来月の何日は何曜日?』というような時が時々あります。手帳を見たり、壁にかけたカレンダーをみて確認もひとつですが、即デスクトップで確認ができるということです。また西暦と元号を変換してみたい時も結構あり、デスクトップで西暦を入力すれば元号に(またその逆も)即変換してくれますのでこれも非常に役立っています。ただデスクトップに貼り付けますので少しスペースをとります。必要でない時は最小化にすれば一時的に消すことができますのでスペースは確保でき、必要時に表示すればよいということになります。

設定方法は以下のようにします。

検索サイトグーグルのトップ画面の『サービス一覧』をクリック

『デスクトップ検索』をクリック

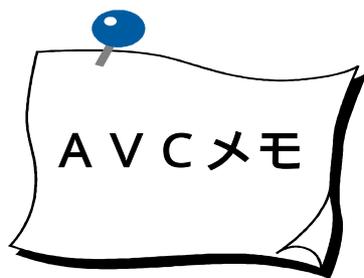
『グーグルデスクトップをインストール』をクリックしてインストールします。

デスクトップにガジェットが表示されますが、不必要なものは各ガジェット右上の×で消去。

必要とするガジェット追加は、ガジェット最上段のGoogle右の+をクリックしてガジェット一覧で確認し追加するとよいでしょう。

※Windows Vistaでは標準搭載として、マイクロソフトのガジェットがデスクトップ右側のサイドバーに表示されるようになっています。

これらは、パソコンのライフスタイルを変えるほどのものではありませんが、私にとっては非常にパソコンが楽しくなったように思います。今回ご紹介したものをすでに利用されておられる方、使ったけれど今ひとつという方もおられると思いますが、まだ体験されたことのない方は一度体験されてはいかがでしょうか。



非可逆圧縮ということ

竹田 幸男

圧縮とはデジタルデータの量を少なくして、データを貯蔵するのに必要なメディア(ハードディスクとかCD・DVD)の容量が少なくて済むようにする、逆に同じメディアに、より多くのデータを貯蔵することができるようにする方法です。

また、データを伝送(機器の中で、また機器間で、またネットに、データを送ること)するときの伝送時間を短縮したり、伝送遅れがないようにするためにも行います。デジタルテレビ放送も圧縮を使っています。

この圧縮には可逆圧縮と非可逆圧縮(ひかぎやくあっしゆく・・・不可逆圧縮ともいう)とがあります。

まず、可逆圧縮とは、圧縮前のデータと、それを圧縮した後、展開(元に戻すこと・・・俗に「解凍」と言うこともあります)をしたデータとが、完全に一致するものをいいます。パソコンのソフトなどがCD-ROMに入っていますが、多くは圧縮されて入っており、これをパソコンにインストールするときに解凍しますが、解凍したときに元通りのデータに戻っていないとパソコンは動作しません。

非可逆圧縮とは、圧縮し、解凍したデータが、圧縮前のデータとは完全には一致しないデータ圧縮方法のことです。

非可逆圧縮は、主に画像や音声、映像データに対して用いられます。非可逆圧縮は可逆圧縮よりも圧縮率を高くできるので、メディアに記録するときは、より少ない容量で済むのです。静止画像ではJPEG、動画像ではMPEG-2、MPEG-4 AVC/H.264、DivX等々、また音声ではWMA、AAC、MP3、ATRAC、Dolby Digital等々があります。

非可逆圧縮で圧縮すると、それを展開(解凍)したとき、データは元通りにはなりません。これを劣化と言います。しかし、これらの圧縮方法では人間の視聴覚特性を利用して劣化を目立たなくしているのです。

それは、人間の感覚に伝わりにくい部分は情報を大幅に減らし、伝わりやすい部分の情報を多く残すようにして、データを間引くことで、わずかなデータ量で記録や伝送ができる(すなわち圧縮率を高くする)のです。

また小さい画面や小さいスピーカーであれば、圧縮率の高いデータでもあま

リアラが見えないので、たとえば携帯電話で受けるテレビは、地上デジタルの放送電波13セグメントのうちの1つのセグメントの電波（ワンセグメント、いわゆるワンセグ）で受信できるので、わずかのデータでよく、車の中でも安定に受像できるのです。このように非可逆圧縮とは、言い換えれば人間の目や耳をだましているわけです。

だから、DVで撮ったビデオをMPEG2形式に変換してDVDに入れるときには非可逆圧縮をしていて、データは必ず劣化します。例会ではDVテープで発表するのが最もきれいに見てもらえるのです。DVDからまたDVテープに戻せば、そこでもまた非可逆圧縮をしていることになり、さらに映像音声は劣化します。だんだん元のものとは隔たったものになってしまいます。 ■